

【オリエントシールド26（病院計画訓練）】

自衛隊札幌病院（病院長 菊池陸将）は、令和8年度日米豪陸軍との共同衛生訓練（オリエントシールド26）に参加し、11旅団が開設した収容所において共同治療能力とDCS（ダメージコントロール手術）の技能向上を図るとともに、本訓練の基盤を活用した、病院計画に基づく航空後送患者受入訓練を実施しました。訓練では、UH-1からの緊急患者の卸下及び搬送要領を演練するとともに、方面衛生隊及び航空科との協働による対応要領の構築及び連携の強化を図りました。院内においては、指揮所から救急外来、検査部門、病棟、手術室に至るまで、治療・収容に関わる各部門間の切れ目のない情報共有を図りました。また、患者の容態変化や治療状況に応じ、受け入れから手術準備、病棟受け入れ、患者管理に至る一連の対応を確実に円滑に実施できるよう、実践的な訓練を重ねました。

自衛隊札幌病院は、北方衛生科の中核として、また自衛隊地区病院の代表として、いつ、いかなる任務が付与されても即応し得る組織を創造するため、引き続き訓練を積み重ね、その成果を発信していきます。



病院駐車場へのUH-1着陸



医官による患者の初期評価



CT検査



病棟収容後の患者観察



衛生学校教官による技術指導



手術室での準備



救急外来での受入れ



訓練光景



病棟への送り



訓練全般説明